

教科	理科	科目	地学基礎			単位数	2
学科	普通科	履修学年	2 学年	コース	文系・理系（生物選択者）	必修・選択	文系：必修 理系：選択
教科書	改訂版 高等学校 地学基礎（数研出版）						
副教材等	改訂版リードα 地学基礎（数研出版）・三訂版ニューステージ地学図表（浜島書店）						

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①自己実現に向けて主体的に行動し、目標達成のために継続的に粘り強く取り組む能力と態度を育成する。 ②社会の一員として自己の責任を自覚し、他者と協働しながらより良い社会の実現を目指す態度を育成する。 ③人権、差別問題等を正しく理解し、適切な行動をとることができる能力と態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①進路目標に応じた情報収集や分析等により、生徒に現状と課題を認識させ、進路実現への意欲を高め、自主的な学習活動を促す。 ②ICTの活用による学習効果を高める工夫や積極的な授業改善により、生徒が「より深く分かる」授業を展開する。 ③探究活動を通じて、広い視野で物事を捉え思考する能力、課題解決に主体的に取り組む姿勢を育成する。また、発表等の機会を活用し、企画力やプレゼンテーション能力等の育成を図る。 ④人権に関する課題や多様性について理解を深め、課題を自らの事として捉え、人権を尊重する行動がとれる資質を身に付ける。 ⑤生徒の人格を尊重した丁寧な指導や、内面に寄り添った支援等により、自律的な行動への変容を促し、自己指導力を向上させる。

学習目標	地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球環境を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養う。
指導の重点	地球や地学現象について観察や、実験などを通して考察し、科学的なものの見方を養うことを大きな指導の重点とする。また、地球とそれを取り巻く地学現象を総合的にとらえることができるように指導する。

学 習 計 画	学期 (時数)	学習項目	学習内容(学習活動)	評価方法
	1 学期 (20)	活動する地球	地球の構造 プレートの運動 (中間考査) 地震 火山 (期末考査)	定期考査や小テストの成績、授業への取組、発表内容、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、評価する。
	2 学期 (24)	移り変わる地球 大気と海洋 地球の環境	地層の形成 古生物の変遷と地球環境 (中間考査) 地球の熱収支 大気と海水の運動 地球の環境と日本の自然環境 (期末考査)	定期考査や小テストの成績、授業への取組、発表内容、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、評価する。
	3 学期 (20)	太陽系と宇宙	太陽系と太陽 宇宙の誕生 (学年末考査)	定期考査や小テストの成績、授業への取組、発表内容、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、評価する。
計 6 4 時間 (5 5 分授業)				
評価の 観点の 趣旨と 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	地球や地学現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに科学的に探究するために必要な観察・実習などに関する基本操作や記録などの技能を身につけている。		地球や地学現象の中に問題を見いだし、見通しをもって観察・実習などを行い、得られた結果を分析して解釈し、導き出した自らの考えを的確に表現するなど、科学的に探究している。	地球や地学現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	[評価方法] 定期考査 小テストの成績 実験レポート 等 上記の内容から総合的に判断し、達成率が 80%以上を A、79~50%を B、50%未満を C と評価する。		[評価方法] 定期考査 実験レポート 授業中の発言 グループワーク 等 上記の内容から総合的に判断し、達成率が 80%以上を A、79~50%を B、50%未満を C と評価する。	[評価方法] 実験への取組状況 授業プリント 等 上記の内容から総合的に判断し、達成率が 80%以上を A、79~50%を B、50%未満を C と評価する。

学習の ポイント	内容の構成及びその取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。 ①中学校理科との関連を考慮しながら、地学の基本的な概念の形成を図るとともに、探求活動を通して地学的な思考力、判断力及び表現力を育成する。 ②地球の形や大きさなどの特徴がどのように研究されてきたかその過程と地球の概要を理解させる。 ③地球の表面をおおっているプレートが別の方向に移動することに伴ってさまざまな地殻変動が起こることを理解させる。地盤にはたらく力や断層・褶曲の形成および変成作用と変成岩についてふれる。 ④地震のメカニズムや地震波の性質、震源の決定方法など地震の基本的な特性について説明し、日本の地震活動にふれる。 ⑤火山噴火のしくみやマグマの発生プロセスなど具体的な火成活動についてふれた後、火成岩の分類について詳しく解説する。 ⑥地層が形成されるしくみと地層や岩石に見られる地質構造について理解させる。 ⑦古生物の変遷などに基づいて地質時代が区分されること、および地球環境がどのように移り変わってきたのかを理解させる。 ⑧大気が地球内部と同様に層構造をなしていることを理解させる。地表と大気間でのやりとりに関して、温室効果などについても十分に理解させる。 ⑨大気と海洋中の主要な運動のエネルギー源は、地球が受け取る太陽放射エネルギーの緯度差にあること、緯度ごとの熱収支を考えると、大気・海洋の大循環による熱輸送が大きく関わっていることを理解させる。 ⑩新聞・テレビなどで扱われることの多い、近年見られる特徴的な地球環境についての報道を科学的に受け止めることができるように、正しい知識と科学的な見方や考え方を養う。 ⑪太陽系の諸天体と太陽の構造、太陽系のでき方について学ぶ。地球の誕生を太陽系の誕生から説明し、岩石質の微惑星から地球が生まれて進化し、大気や海洋が形成されたことを説明する。 ⑫星の見かけの等級の定義を理解させ、太陽も恒星であることを再認識させる。銀河系の構造や形成をふまえて、同じような星の集団が他にも多数あることに目を向けさせる。さらに、138億年前に誕生した宇宙の初期には短期間に劇的な出来事があったことを理解させる。
--	---